

学部4回生・大学院生のための  
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2026.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンター）

皆さんこんにちは。

e-learning教材「学部4回生・大学院生のための 日本語文献探索のキソ」をご覧ください、ありがとうございます。

この教材は、人文・社会科学分野の学部4回生・大学院博士前期課程1年生の方を対象にした内容となっています。

## 「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ  
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法  
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



「卒論・研究きちんとスタート！」シリーズは2つの教材で構成されています。

一つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を入手する方法を学びます。

二つ目は「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献の書誌情報をもとに、今度は論文の本文を入手する方法について詳しく学びます。

図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひご覧ください。

# 本講習会の目標と構成

**先行研究調査の意義と方法を知り、芋づる式調査や文献データベースを適切に活用できる**

1. 先行研究調査の意義
2. 「芋づる式」調査
3. 文献データベースの活用
4. 日本語図書調査
5. 日本語論文の調査 : CiNii Researchを事例に

補遺. シソーラスを備えたデータベース

3

この教材の目標は「先行研究調査の意義と方法を知り、芋づる式調査や文献データベースを適切に活用できる」ことです。内容は、1～5の構成になっています。

# 1. 先行研究調査の意義



では、第1章「先行研究調査の意義」をはじめます。

# 先行研究調査の意義：学習者と研究者

## 学習者のフェーズ

目的：既存の知識や研究を理解し、基礎を磨く



文献から基本的な考え方や知識を学ぶ



関連資料を知り、自分の位置づけを確認する



情報の探し方や引用のルールを身につける



## 研究者のフェーズ

目的：新しい知見を生み出し、価値を示す



まだ十分に扱われていないテーマや課題を見つける



先行研究を根拠に、自分の主張の妥当性と独自性を示す



新しい知見を共有し、学術的な貢献を行う

## まとめ

- 図書や論文などの資料は、著者の調査と研究の積み重ねの成果
- その資料を基に調べ、理解し、発展させていくことが学びと研究の基本



過去の研究の積み重ねの上に新しい研究が生まれる  
「巨人の肩に立つ」ことが研究の出発点である

5

「先行研究調査」とは、自分の研究テーマについて、すでにどんな研究があるかを文献から調べることです。

研究は主に論文や学術書などの文献で発表されるため、最初に文献を適切に集めて読むことが重要です。

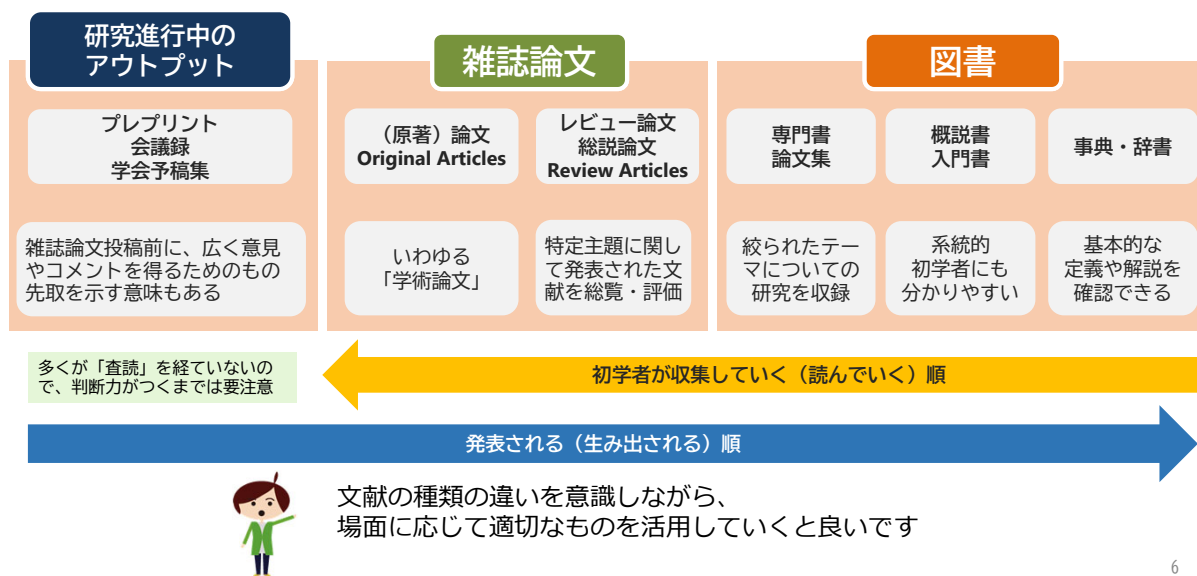
学習者と研究者、それぞれの視点から見た「先行研究調査」の大切さを説明します。

「学習者」としては、既存の知識や研究を理解し、基礎を抑えるということが目的です。事典や概説書などの基本書から基礎を学び、専門書や論文で具体的な研究方法を学びましょう。また、先行研究の限界や意見の対立点を整理することで、自分の研究テーマを絞り込む手がかりになります。

「研究者」として先行研究調査をする目的は、自分の研究で既存の知識に新しい知見を生み出し、価値を示すことです。新規性を判断するには、関連する先行研究を広く調べる必要があります。求められる「新しさ」の水準は、研究分野や学術的な段階によって異なります。たとえば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なりますので、指導教員の助言を受けながら進めることが重要です。論文では、先行研究を踏まえたうえで、自身の研究の意義を明確に示すことが求められます。

このように、先行研究調査は学習とともに、研究にも欠かせないプロセスといえます。

# 研究の流れと学術文献の関係



研究の流れと学術文献の関係を図に示しました。

一口に「学術文献」といってもさまざまな種類がありますが、スライドには主なものをあげています。

大きくくりとして右端の図書、それから中央の雑誌論文があります。ただし、図書に分類される論文集と、雑誌論文に分類される、レビュー論文は、似通った性質を持ちます。

また、左端の研究進行中のアウトプットの図を見ていただくと、プレプリントや会議録などは、研究分野によって学術文献として流通することもあります。

研究成果はまず論文として発表され、議論や引用を経て、やがて図書としてまとめられることも多いです。

学習者が先行研究調査を始めるときは、いきなり論文を読むのではなく、まず事典や概説書などの図書から読み始めて、分野の基礎知識や全体像をつかむのが効果的です。

文献の種類や読む順番を意識して、目的に合った文献を活用しましょう。

# 先行研究調査の2つのアプローチ

## 参考文献をたどる芋づる式調査 : 2章

メリット : 研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット : 参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

## 文献データベースの活用 : 3~5章

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット : 適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット : 使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

7

ここからは、先行研究調査の2つのアプローチを紹介していきます。

1つ目は、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法です。研究の流れを把握できるというメリットがあり、特に初学者にとっては、理解を広げる有益な方法ですが、直接参照されていない関連文献を見落とす可能性がある点には注意が必要です。

2つ目は、文献データベースの活用です。「文献探索」と聞いてまず思い浮かべるのは文献データベースでの検索だと思います。メリットは、多くの文献を発見できること、一方、デメリットは、使い方がよくないと、見逃しが多く発生してしまう可能性があるということです。

人文社会科学系の日本語文献データベースは、検索機能があまり充実していないものが多いため、使い方を工夫しないと、うまく活用できないことがあります。教材の後半で、このようなデメリットを回避できるよう、文献データベース検索のコツを紹介します。

では次のスライドから、「芋づる式」の調査方法について詳しく紹介します。